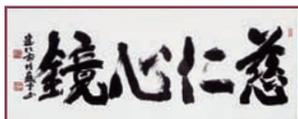




# 関西医科大学 広報

*Kansai Medical University Public Relations*



## 建学の精神

本学は、慈仁心鏡、すなわち慈しみ・めぐみ・愛を心の規範として生きる医人を育成することを建学の精神とする。



## 香里病院着工、2010年に開院



8階建て

地域医療に貢献を

8面、9面に関連記事

オール電化のエコ設計、香里病院の完成予想図

### CONTENTS

中長期経営ビジョン アクション2015	2	附属病院	14
平成19年度決算報告	3	医療安全管理センター	16
平成20年度事業計画	4	卒後臨床研修センター	17
法人部門4室の紹介	7	大学情報センター	17
教授就任の挨拶	9	附属看護専門学校	18
学事	11	キャンパス・ニュース	19

# アクション2015

## 今年度の実行チームが活動を開始

常務理事 徳永 力雄

先般、将来の経営目標として「中長期経営ビジョン」を策定しました（平成20年5月学報第615号、広報平成20年5月28日号及び6月25日号）。このビジョンは、本学が日本の私立医科大学の先導的集団の一員としての使命を果たし続けるために、今後約10年間の将来計画の大綱を示したものです。

当面5年間の行動目標を“アクション2015 行動する関西医大”、10年先の到達目標を“ジャンプ2020 飛躍する関西医大”と名づけ、このスローガンのもと全教職員が将来に向かって団結して活動し、これらの目標を達成することを期しています。

“アクション2015”は、香里病院開院（平成22年8月）及び滝井病院改編（平成21年度～）、並びに枚方キャンパスへの学舎・研究棟・看護学校の移転・統合（平成24年度目標）を核にしています。“ジャンプ2020”は、施設整備事業の完遂、枚方キャンパスにおける教育・研究体制の強化、高度・良質・安全・安心医療の提供、大阪北東部の地域医療連携網の充実、を目指しています。下表は、平成20年度（2008年度）予算をベースにした施設整備事業を織り込んだ長期資金収支計画表です。これらの事業を推進するには、教職員の意識の転換、経営・財政の強化、将来目標の共有とそれに則った計画的な事業推進が必須です。

スタートの平成20年度は、事業の具体化のための基礎固めを重点に、かつ経営には挑戦的に取り組んでまいります。その一つとして、今年7月の理事会において、平成20年度“アクション2015”実行組織を次のように21チーム発足させました。

すなわち、Action1卒業研修プログラム改善、Action2大学院制度改革、Action3女性医師支援、Action4専門医育成制度（以上、教育・研究領域）、Action5大阪北東部地域医療連携網の再構築、Action6附属病院の機能分担、Action7医療の質・医療安全・患者満足度の向上、Action8附属枚方病院改善、Action9附属滝井病院改善、Action10附属男山病院改善、Action11香里病院開院準備（以上、医療事業領域）、Action12枚方キャンパス学舎集約事業計画（以上、施設整備事業領域）、Action13財務5カ年計画、Action14予算管理、Action15外部資金獲得推進（以上、財務領域）、Action16人材育成、Action17職場復帰支援、Action18人事給与制度改革（以上、人材育成・人事給与領域）、Action19法人経営・執行体制、Action20組織・業務プロセス改善、Action21法令遵守・内部統制（以上、経営・管理領域）、の21チームです。

総合してAction21と称し、それぞれのチームリーダー及びサブリーダーとチームメンバーが自主的に活動し、進捗状況と成果は理事会で集約しながら、いろいろな形で教職員や関係の皆様にお知らせして参ります。不確定要素も多々見込まれるため、計画推進にあたっては内容や方法等を適宜検証しながら慎重かつ果敢に実行してまいる所存です。

関係者並びに教職員の皆様のご協力とご支援をお願いいたします。

### 長期資金収支計画

（単位 百万円）

	2006年度 実績	2007年度 実績	2008年度 予算	2009年度 計画	2010年度 計画	2011年度 計画	2012年度 計画	2013年度 計画	2014年度 計画	2015年度 計画
帰属収入	学生納付金	3,239	3,245	3,290	3,290	3,290	3,290	3,290	3,290	3,290
	寄付金・補助金	3,244	2,663	2,860	2,860	3,161	3,211	4,200	3,188	3,177
	医療収入	33,187	35,172	37,216	37,438	38,162	39,196	38,753	39,311	39,368
	その他	3,736	3,511	1,563	1,228	1,252	1,268	2,129	1,842	1,268
	帰属収入計(a)	43,406	44,591	44,929	44,816	45,865	46,965	48,372	47,631	47,103
消費支出	人件費	20,063	20,132	20,265	20,328	21,329	21,298	21,267	21,236	21,205
	教育研究管理経費	7,803	7,700	8,168	8,116	8,534	8,480	8,508	8,751	8,808
	医療経費	9,783	10,274	10,800	10,753	10,995	11,309	11,189	11,204	11,219
	その他	5,368	5,669	4,866	4,804	5,268	5,243	5,343	5,456	5,374
	消費支出計(b)	43,017	43,775	44,099	44,001	46,126	46,330	46,307	46,647	46,606
帰属収支差額(a-b)	389	816	830	815	△261	635	2,065	984	497	
資産売却収入を除く 帰属収支差額	△1,888	△1,481	495	815	△261	635	1,204	410	497	

# 平成19年度決算報告

財務担当理事 岩坂 壽二

平成19年度は、附属枚方病院を中心とした本学病床再編成の2年目を迎え、附属枚方病院建設に係る多額の借入元利金返済のための経営基盤を確実に築くべき年度として、予算編成では香里病院等特別収支部門を除く経常段階の収支において黒字予算を組み込むこととしました。

しかしながら、9月の決算見込みでは、経常段階帰属収支差額（帰属収入－消費支出）は約16億円の赤字が予測され、決算では約6.5億円のマイナスまで赤字幅が縮小し、前年比では3.8億円の改善となりました。換言すれば、下半期に猛烈な巻き返しをしたこととなり、職員の皆様に感謝致します。この要因の分析が平成20年度にも重要と考えました。季節要因などの自然増なのか、施策による効果であるのかを分析しました。すなわち、収支改善実行タスクフォースが活動し、画像診断・臨床検査稼働体制の増強、救急医療体制の増強、業務委託費の削減、医薬品・診療材料費の削減、7対1看護による施設基準の取得（附属枚方病院は平成19年5月に、附属滝井病院では平成18年10月）と附属滝井病院から附属枚方病院への病床44床の移転などが下半期に効果を発揮したと考えられます。さらに附属枚方病院、附属滝井病院ともにスタッフの努力により医療収入は下半期に大きく伸びました。この経常段階の収支差額に、旧香里病院土地の一部売却及び教養部グラウンド売却に伴う資産売却益23億円、また減価償却方法の見直しや資産整理に伴う特別損約9億円等特別収支を加えると、最終的には法人全体で約8億円の黒字決算となりました。

## 1. 主な消費収支科目の動向(表1)

## 消費収支決算の推移

表1

(単位百万円)

### (1) 収入の部

① 学生納付金: 帰属収入の8.0%を占める本学の重要な収入源のひとつです。平成13年度の授業料等の引上げによる学年進行から、毎年増収となっています。

② 寄付金: 施設設備整備拡充資金募金をはじめ、研究助成金等外部からの寄付金を計上

消費支出の部				消費収入の部			
科目	19年度	18年度	17年度	科目	19年度	18年度	17年度
人件費	20,156	20,091	22,266	学生生徒等納付金	3,245	3,239	3,236
教育研究経費	19,770	19,392	18,477	手数料	91	88	88
管理経費	2,101	2,051	2,620	寄付金	539	700	947
借入金等利息	995	995	628	補助金	2,124	2,543	2,751
資産処分差額	698	428	1,024	資産運用収入	303	269	92
徴収不能引当金繰入額	55	60	71	資産売却差額	2,297	2,277	0
消費支出の部合計	43,775	43,017	45,086	事業収入	133	152	126
当年度消費収支超過額	△547	389	△4,556	医療収入	35,172	33,189	32,202
前年度繰越消費支出超過額	△30,437	△39,144	△36,955	雑収入	687	949	1,088
基本金取崩額		8,318	2,367	帰属収入合計	44,591	43,406	40,530
翌年度繰越消費支出超過額	△30,984	△30,437	△39,144	基本金組入額合計	△1,363	△0	△0
				消費収入の部合計	43,228	43,406	40,530

帰属収支差額(注) 816 389 △4,556

(注) 「帰属収支差額」とは、「帰属収入合計」から「消費支出の部合計」を差し引いた金額です。

しています。平成19年度は、附属枚方病院建設募金が終了したため、減少しています。

③ 医療収入: 帰属収入の78.9%を占めます。附属枚方・滝井病院の医療収入の伸びは大きいものでした。すなわち、附属枚方病院の医療収入は約200億円（前年比20億円増）、附属滝井病院の医療収入は約118億円（前年比5億円増）と増加しましたが、附属男山病院の減収（約5億円）が著しかったです。

### (2) 支出の部

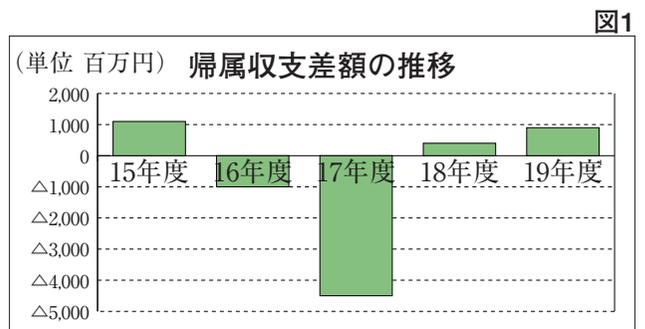
① 人件費: 経常収支悪化の中、人件費増加の抑制を行っており、予算内に収まりました。

② 教育研究経費・管理経費: 教育研究経費については、医療収入の増に伴う医療経費の増4億9千万円を含んでいます。

③ 借入金等利息: 借入金の増額がないため、前年度と同額となりました。

## 2. 帰属収支差額(図1)

一般企業でいう当期利益（あるいは損失）に当たる帰属収支差額は、平成17年度は附属枚方病院等の病床移転ロスにより45億6千万円の赤字、平成18年度は3億9千万円の黒字、平成19年度は8億1千万円の黒字となっています。平成17年度の赤字は、新病院立ち上げによる影響でしたが、平成18年度、平成19年度においては、3病院の新体制により、医療収入が平成17年度よりは画期的な増収になったものの、法人の計画どおりには収支予算を達成できなかったのが現状です。



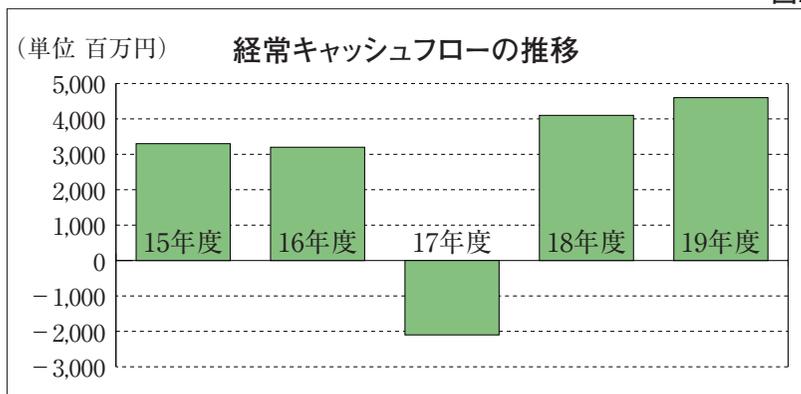
### 3. 経常キャッシュフロー〔帰属収支差額十減価償却額〕(図2)

経常キャッシュフローとは、学校部門及び病院部門を運営した結果、財布のなかにどの程度の現金が増えたか、あるいは減ったかを表わし、平成19年度においては、資産売却差額を除くと約22億円の経常キャッシュフローとなりました。この資金により、資産の整備や借入金の返済を行っています。

#### 平成19年度決算からのメッセージ

平成19年度決算は予算とは大きく乖離した赤字に終わりました。また、平成17年度の本学の総負債比率（総負債÷総資産＝私立医科大学の平均は30%強です）は71.3%と高かったが、平成19年度は68.5%と徐々に減少しているものの依然高い数値です。しかし、収支改善実行タスクフォースの活動、三菱総合研究所によるコンサルティング、病院長を先頭とした医療スタッフの経営努力、何にも増して全職員のコスト感覚への目覚めにより平成19年度下半期に収支が改善する兆しを見せたことは将来に一筋の光明を見た思いです。これら経営改善の施策を平成20年度はさらに掘り進めなければなりません。しかし、今しばらくは出るを、制する時が続く、予算外執行も抑制せざるを得ません。職員の皆様にはがまんを強いることとなります。冷暖房の温度設定、トイレ・空室の照明への配慮、無駄なコピーの抑制、効率の良い業務の遂行など一人ひとりができることを考えて、一人ひとりがリーダーとして誰かを引っ張って欲しいと思います。歴史は時間によって作られますが、伝統は人が作ると思います。20年後の100周年に足跡を残して下さい。

図2



## 平成20年度事業計画

平成20年度の事業計画は、過年度までの大型事業による借入金返済開始を踏まえた財政安定化計画に沿い、かつ今後の中長期経営目標を視野に置いて策定されました。以下、本年3月の定時理事会事業計画書から抜粋してお知らせします。

### 1. 教育

- (1) 十分な基礎学力と医師に必要な人間性を涵養するための講義・実習・早期医学・医療体験学習の一層の充実（第1学年）、実習中心の体系的基礎社会医学教育および問題解決型統合型チュートリアル教育の強化推進（第2学年から第4学年）、並びに共用試験（CBT、OSCE）による学習成果と臨床実習参加資格の評価を行う（第4学年末）。
- (2) 臨床実習方略を見直した新カリキュラムのもとで、卒前医学教育の仕上げとして、医行為を行うに必要な知識、態度、技能のさらなる向上を目指した授業の後、Advanced OSCEを含む卒業認定試験を行う（第5学年、第6学年）。
- (3) 卒後研修プログラム・大学院制度の改善、医師・看護

師の確保等に向けた人材育成制度の充実、並びに研修医・専修医の研修設備、処遇、女性医師等の支援体制、広報等の強化を図る。

### 2. 研究

- (1) 文部科学省並びに厚生労働省の科学研究費補助金、独立行政法人科学技術振興機構、民間助成財団助成金をはじめ、学術研究助成金、受託研究費に対応する研究活動を積極的に推進する。
- (2) 遺伝子導入や幹細胞による「再生能」に加えて、神経系の「可逆性」や「自己修復能」に焦点を当て、慢性疼痛をはじめとする神経系難治性疾患の治療に向けた横断的トランスレーショナル研究を推進する。
- (3) 生体情報に関する医学研究を推進するとともに、研究

所共同研究部門である総合研究施設の機器の整備・管理運営を技師と連携しながら行い、学内研究者の利便を図る。

- (4) 研究データベース(研究者情報、業績、研究資金)を管理運用する組織作りを行い、データベースの充実と構築を行う。

### 3. 医療

#### (1) 附属枚方病院

財政基盤の一層の強化を図りつつ支出の抑制と教育・研究の充実、医療の質の向上を最優先目標として、下記の平成20年度及び中期の事業に取り組む。

- ①専任となった病院長の執行権限の明確化を行う。
- ②現行医師総定数枠の中で、各診療科における医師定数を見直す。
- ③各部門の在庫量と消費分析等を行い、附属3病院（さらには近隣医科大学・地域医療機関）の共同購入も視野に入れ、医療経費削減の推進を図る。
- ④救命救急センターの許認可取得に伴う、医師配置数等診療体制の強化を図る。
- ⑤手術室、NICU、GICU施設の能率的な利用を推進。
- ⑥外来部門の新設と患者応需体制を踏まえた診療ブースへ再編を行う。
- ⑦ストローク・ケア・ユニット(SCU)の推進を検討する。
- ⑧病床稼働率の向上と在院日数の短縮化を図る。
- ⑨看護師の確保と待遇の改善を行う。
- ⑩医師の事務的業務の軽減、患者待ち時間の短縮化等に向けて医療クラークの導入を検討する。
- ⑪がん診療連携拠点病院の指定取得推進と緩和ケア病棟のあり方の検討及び資格者の育成を図る。

#### (2) 附属滝井病院

収益の改善と支出経費の抑制に向けて、財政安定と支出抑制を強化しつつ、臨床研修医の教育の場の充実と医療安全の確保を目指し「安心してかかる病院」を目標に、平成20年度予算達成に向けて下記の事業に取り組む。

- ①平均入院患者数496名、92%の病床稼働率を目標に、日祝日の入退院の検討等、特定病床の効率的な運用と患者サービスの観点等を考慮し、目標値の達成を図る。
- ②クリニカルパス症例の拡大、短期検査入院の増加、地域医療連携の強化により、平均在院日数を15日へと短縮することに取り組む。
- ③医療安全面の視点から外来診察時における臨床検査等の件数増加による診療単価向上に取り組む。
- ④MRI検査における21時までの時間外検査の実施、検査予約枠80%の利用を目標に、こまめな管理運

営を行い、医療収入の増加を図る。

- ⑤救急患者の受入れ強化について、経営コンサルタント支援のもと、体制整備の具体策について検討を進める。
- ⑥一般消耗品の削減、賃借料等の契約内容の見直しを行い、経費削減を検討し、実施する。
- ⑦化学療法を外来で行う化学療法センターの設置を検討する。
- ⑧ベッドメイキングを業務委託化し、各職種との役割分担を推進する。

#### (3) 附属男山病院

- ①医療連携室の強化を図り、患者獲得に向けての方策の検討、特に開発が目覚ましい松井山手地区からの患者獲得に努力する。
- ②枚方・滝井両附属病院、開院予定の関西医科大学香里病院も含めての位置付けを明確にした上で、今後の収支改善計画と将来像を構築する。

### 4. 経営・管理

#### (1) 中長期経営計画の策定

関西医科大学香里病院の建替え開院や学舎の枚方キャンパスへの移転等の大規模プロジェクトを盛り込んだ諸施設の整備計画と収支改善計画を踏まえた「中長期経営計画」を策定する。

#### (2) 支出予算執行の適正化と管理強化

平成20年度以降各年度の予算の確実なる達成のために、支出予算の執行に関し、稟議決裁制度の改訂、病院部門の設備投資予算の計上方法の変更、一般経費予算の執行方法の変更、医療経費管理方法の強化等の諸施策を講じ、その定着を図る。

#### (3) 経営状況把握の迅速化

各部署の月次収支状況の速やかな把握と対応策立案のために、新経理システムによる報告計表様式の簡素化、理事会及び関係各部署への情報フィードバックの迅速化を図る。また、そのための関連事務組織間の協調・協力体制の刷新を行う。

#### (4) リース等外部負債管理の一元化

文部科学省によるリース会計基準の変更に対処し、加えて多額にのぼる外部負債のより適正な管理に資するため、リース金融活用の裁定を財務部門の専決事項に改めて外部負債管理の一元化及び適正化を図る。

#### (5) 資金繰り操作の合理化

厳しい資金繰り状況に対処し、弾力的な資金操作と余資の合理的活用を資するため、資金振替等の手続の見直し、銀行取引口座数の削減、さらには経費支払い業務の中央化等を行う。

## 法 人

### 5. 人事・労務

#### (1) 組織・制度の見直し

大学事務局の組織改編に伴い設置した広報課において、学内外に対する広報手段の拡大と充実、危機管理広報機能の充実による組織防衛力の向上等を図る。また、勤怠管理に関し滝井地区職員出退勤の発生源入力によるシステム一元化を行い、効率的運用を図る。

#### (2) 人事関連諸施策の充実

人材教育・育成については、内外から講師を招聘して効率的な能力開発研修、接遇教育を行いつつ法人の教育研修体系を充実する。人事・給与制度は、目標管理を含めた人事考課制度の導入を目指し、考課者訓練、育成目標面接を実施するとともに、職能資格制度の構築を図る。教員の活動評価については、評価にかかわる教員の事務的負担を軽減し、かつデータの正確度を高めるために、新たに見直して策定された教員評価調査票にもとづき、報奨制度も組入れた教員評価を実施する。人件費は、予算編成時に盛込まれている法人の方針（賞与の支給基準・人員増員認可基準等）に則り、適正な人件費予算管理を行う。

### 6. 情報

- (1) メインフレーム（汎用大型コンピュータ）方式からクライアントサーバ（分散型コンピュータ）方式に切り替えを終え、各システムのシステムチューニング、保守形態の確立、マニュアルの作成・整理を継続する。
- (2) 安全なネットワーク利用環境の整備を行い、遠隔講義を含めた教材作製・公開支援、学部・大学院・附属看護専門学校への情報教育の実施と支援、学内ネットワークの運用管理及びシステムの運用支援等について支援する。
- (3) 附属病院間の診療連携のためのシステム整備を継続し、地域医療連携システムを構築する。教職員の情報共有及び教育のためのE-learning環境の構築とコンテンツ整備を行う。さらに各附属病院における病院情報システムの機能拡充を進め、次期システム更新に向けた中長期計画を策定し、各附属病院における診療情報を共有して保存する等の効率化を図る。

## 寄付金

平成20年度施設設備整備拡充事業資金へご寄付いただきました方々のご芳名を掲載して感謝の意を表します。（平成20年5～7月分）

#### 〈個人〉

芦田 健太郎 様	安達 郁 様
新井 永達 様	飯田 俊二 様
市川 良之 様	乾 貞史 様
植木 秀実 様	馬野 隆信 様
大原 一枝 様	佐藤 宏昭 様
佐野 浩一 様	谷口 隆 様
丹羽 宏 様	萩原 和光 様
前田 慶子 様	村下 純二 様
吉尾 章一 様	

#### 〈医療法人〉

江草玄士クリニック 様  
神谷産婦人科医院 様

（個人・法人別50音順）

### 平成19年度・平成20年度の内部監査

内部監査室長 稲垣 千代子

平成19年度内部監査結果および平成20年度内部監査計画を6月16日の理事会に報告して承認されました。

#### 1. 平成19年度内部監査結果

学部と附属枚方・滝井・男山各病院を対象に学納金、奨学金返済、入院・外来窓口支払いの収納状況・未収金管理、および研究・医療機器購入の選定から利用状況までの業務について監査し、(1) 大学院授業料納入遅滞の改善 (2) 購入機器の選定・発注・納入・検収状況の経過一覧表作成等による購入手順の誤りの防止と機器購入の効率性の向上 (3) 窓口未収金の発生防止と早期回収を目指す附属3病院共通マニュアル作成と未収金残額の低減、等の提言を行いました。

#### 2. 平成20年度内部監査計画

監査を教養部・附属看護専門学校・附属枚方病院開院時購入医療機器について、その他危機管理（災害時、医療安全）、附属3病院の医事業務状況および理事長特命監査として事務職人材育成状況について監査を実施します。

## 法人

法人部門  
4室紹介

経営企画室 病院経営推進室 施設整備企画室 香里病院準備室

## 本学の中長期経営ビジョンの推進役を担っています

本学の中長期経営ビジョンを推進するため、このほど常任理事会直轄の経営企画室、病院経営推進室、施設整備企画室、香里病院準備室の4室が設置されました。“アクション2015”“ジャンプ2020”の事業を具体的に推進する、重要な役割を担っている部門です。そこで、今回、法人としての役割、室長としての抱負を語っていただきました。



## 経営企画室

中長期財政シミュレーションの  
企画・立案、そして実行

室長 岩坂 壽二

経営企画室は、平成20年6月1日に経営企画部門の整備拡充を成すべく大きく改組されましたので紹介します。

背景：理事長・学長・常務理事により企画・作成された中長期ビジョンは平成20年度がスタートの年に当たり、かつ、当年は借入元利金が最大となる年度でもあります。また、本格的なスピード感のある大学改革の初年度にも当たる重要な年と位置付けられます。

目標：理事長・学長・常務理事の指令により大学経営改革の舵取り役を担い、中長期ビジョン実行のために、統制のとれた中長期財政シミュレーションを企画・立案し、迅速に実行し、学内に周知することです。

方策：①平成20年度予算を達成するために、人的物的両面から支出の監視強化を行い、用度担当理事、医療担当理事と連携し、適正かつ契約の破棄条項にも踏み込んだチェックを行います。②経営管理情報の迅速なる報告を各業務担当理事と協議しながら実行し、機会損失の考えを定着させます。③組織強化策としての人事評価制度の早期導入を、総務担当理事を支援する形で参画し、

職員への改革の意思を形として伝えます。④附属滝井病院の黒字化を病院関連検討委員会と連携し、さらなる増収策、人件費を含めた支出抑制を立案し、病院長に提案します。⑤附属枚方病院の収益性を向上させるためのリーダー病院としての機能を果たしつつ支出抑制策を立案し、効果ある投資を行います。

以上のような方策を実行するため、①経営企画室と施設整備企画室は業務担当理事と毎週定期的に協議しています。そこから情報の共有化を図り、立案・実行している。②金融担当顧問と財務ミーティングを行い、財務状況と金融機関の情報を検討・吟味しています。③活動内容は理事長・学長・常務理事に報告し、指示を仰ぐことになります。

職員各位へ：経営企画室は附属滝井病院C棟3階の総室を利用しています。本学の財政環境は、決して順風とは言いがたいですが、80年の伝統を築いた職員の皆様の力を結集して、新香里病院の高い位置でのスタート、枚方地区への学舎・研究棟の円滑な移転を果たすためのガイドをすることができることを願っています。



## 病院経営推進室

## 大学としてソフト面で附属3病院を支えます

室長 新宮 興

本学の附属3病院間の調整を図るために医療・看護担当理事である私の所轄として、「病院経営推進室」が設置されています。

山崎紘事務局長の在任期間中は私と山崎氏が当室の職員であり、おもに理事会下部会議体である病院関連検討委員会の事務取扱を行ってきました。今年度の組織改編に伴い、「経営企画室」、「施設整備企画室」と並び、附属3病院に共通する課題を検討する組織として、兼務ながら宇都宮良男総務部長、内田静子看護部長、吉本千夫卒後臨床研修センター事務長が加わった組織へと改編されました。さらに、各病院の地域医療連携室間の共同課題にも取り組むため、附属枚方病院からは吉岡晋課長、附属滝井病院からは井上謙治係長

が兼務で当室の職員として加わりました。

病院経営推進室の業務の第1は、設置当初からの業務である病院関連検討委員会の事務取扱です。病院関連検討委員会は臨床系業務担当理事（岩坂壽二、神崎秀陽、澤田敏、新宮興）と附属枚方（今村洋二）・附属滝井（高橋伯夫）病院長を構成員とし、現在では6人から成るため、6人委員会とも称しています。病院関連検討委員会ではこれまで、病院教授等の新設、専修医等の定員、診療科教員の定員、附属滝井病院から附属枚方病院への病床移転とそれに伴う職員数の調整等、附属病院間で生じる各種課題について検討し、理事会の承認を得て実行してきました。現在、検討している課題としては、病院長規定の策定、医師勤務時間管理、専修医等の定員配置変更、

## 法 人

中央部門教員配置等があります。大学の経営における附属病院の役割は極めて大きく、各附属病院が協調・役割分担しながら運営していくことが求められています。他方、専門部における講座制の縦組織と競合せざるを得ない課題も多く、本委員会の権限を超える課題も多い中で、いかに調整するかが大きな課題です。

病院経営推進室の業務の第2として、各病院に共通する課題を取り組むことが挙げられます。今回の地域医療連携室の連合もその一つです。各病院における地域医療施設・医師との連携のために登録医制度を新設する案が浮上しており、この登録医を病院ごとではなく、大学の登録医として新設できるかが目下の課題です。また、大学は医療

人育成機関であり、多くの医療人（特に医師）が他医療施設で活躍し、その地域における医療に貢献しています。本学は従来関連病院を有さず、各診療部（講座）レベルで関連病院と密接な関連を結んできています。大学として他医療機関との人的連携を今後、検討していく必要があります。病院経営推進室ではこの問題に対して現状把握を始めたところです。

平成22年には香里病院が開院することが決定しており、専門部・教養部・附属看護専門学校の枚方地区への移転を見据えて、各附属病院の機能役割と協調を進める必要があります。病院経営推進室はソフト面での大学としての各病院の支えとなることを目指しています。



### 施設整備企画室

#### 中期目標の施設関係の基本計画を具現化

室長 澤田 敏

「施設整備企画室」は平成20年5月1日付で本学法人組織の中に設置することが決定され、私が6月1日付で室長に就任いたしました。その後、人事面の補強策として高井俊学部事務部長が兼務で参画し、また、7月11日付で附属枚方病院の経理課長であった田村晶弘氏が専任事務員として就任しております。従って、当面は私を含めて3人体制で仕事をしていくことになります。

仕事の場所は施設整備企画という性格上、法人施設部との密接な連携が必須となることから附属滝井病院南館2階にある施設部の隣（旧事務局長室）に置かれています。

さて、肝心の仕事の内容ですが、その基本は平成20年6月に立てられた本学の中期目標計画“アクション2015”の中から施設整備関係の基本計画を具現化する作業であります。具体的には平成24年に予定されている枚方キャンパス学舎集約事業計画ではありますが、これには新学舎本体の基本構想、即ち、学生講義・実習室、基礎・臨床の研

究室、教職員の居室、図書館などの規模と内容を画定し、これに付随する施設として連合大学院関係や看護専門学校をも含めたものを構築しなければなりません。さらに、グラウンドや駐車場整備にも整合性を求めなければなりません。これらのことを期限内に具体化するわけですが、さらには、これと平行して牧野・滝井学舎の跡地と附属滝井病院の改築についても関連部署との協議を重ねながら時間をかけて検討していくことになります。

施設整備企画室の設置は法人として、“室”を新設して施設整備に真剣に取り組み、本学発展の基礎となる磐石な施設整備を合理的に達成する決意の表れです。ただ、本計画達成のためには財政的支援が必要であることは当然のことであり、経営企画室（室長：岩坂理事）との連携がきわめて重要であると考えております。

最後になりましたが、私が“室”を運営する上での基本理念は「旧来の陋習（ろうじゅう）を破り万機公論に決すべし」と考えておりますので、皆様方の多くのご意見をお寄せいただきたく思います。

### 香里病院準備室

#### 機能分化、専門領域の形成が重要な課題

室長 高山 康夫

平成20年6月23日に関西医科大学香里病院の起工式が行われ、7月1日着工されました。同時に7月1日より附属男山病院に香里病院準備室を設置し、7月14日には準備室職員を対象に香里病院の概要とこれからの準備室の業務スケジュールを説明しました。準備室では、今後の香里病院開設にいたる多くの問題および計画に対して、企画・立案・調整および策定を行います。このためには、それぞれの課題に合わせた各種小委員会を組織する必要があります。現在、準備室に常駐している本務職員は3名、7月は香里病院事業計画の策定に追われていました。8月から

は附属男山病院に勤務する兼務職員らの協力を得て、小委員会を組織する準備に追われています。

近年、医療施設は、一つの医療施設で完結した医療を提供するのではなく、様々な機能を持つ施設が互いに連携をとりながら、それぞれが得意とする医療を提供する構造へと変化してきています。この機能分化と専門特化の考え方は、関西医科大学の医療機能の再編を考える上でも重要です。高度先進医療を担う特定機能病院である附属枚方病院および附属滝井病院との連携を活かし、同時



## 法 人

にこれら2病院とは異なる専門領域を形成していくことが香里病院の重要な課題です。今後は、各科の担当者との点での意見調整を行っていききたいと思います。

香里病院は、寝屋川市および寝屋川医師会の強い病院存続の要望に応える形で計画された病院です。このため、「地域に根ざし、住民に寄与する病院を目指す」ことは重要な基本方針です。京阪香里園駅前の立地条件を活かし、夕方診療などの新しい試みも住民サービスの一つとして

検討されています。女性の方々にも安心して入院していただける女性フロアの設置や、環境にやさしい施設としてのオール電化が採用されました。平成22年8月1日に開院する香里病院が、「地域住民および地域の医療機関に開かれた親しみやすい病院」であり、「職員が働きやすく、働き甲斐もてる職場」となることを目標に頑張りたいと考えています。香里病院準備室へのご協力をよろしくお願い申し上げます。

### 香里病院 起工式行われる

香里病院起工式は、6月23日（月）午前10時30分から寝屋川市香里本通町の建設予定地にて行われました。式には、塚原勇理事長、山下敏夫学長はじめ、馬場好弘寝屋川市長、早川貫治寝屋川市医師会長、大東豊治香里園駅東地区市街地再開発組合理事長ら学外の来賓や教職員多数が臨席し、挙行されました。

香里病院は、寝屋川市および同市民から病院存続の強い要望を受け建設する事になったもので、7月1日着工されました。構造は、鉄筋コンクリートRC造（免震構造）で地下1階、地上8階、塔屋1階の階層となっています。環境に配慮した高効率設備によるオール電化を導入します。病床数は200床、診療科目は内科・外科・整形外科・泌尿器科・婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・皮

膚科・小児科など旧附属香里病院の診療科目を基準としています。平成22年8月開院予定。



穿初（鋤）をされる塚原理事長

## 就 任 の 掬



### 耳鼻咽喉科学講座教授に就任して

耳鼻咽喉科学講座教授 友田 幸一

平成20年7月15日付で山下敏夫教授（現学長）の後任として耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座教授（歴代7代目）に就任いたしました。私共の領域は、上気道炎、アレルギーなど基本的な疾患を中心としたプライマリーケアから、難聴、めまいなどの感覚器障害、嚥下、発声、呼吸などの機能障害、そして頭頸部腫瘍性疾患を対象とした専門的な医療を行っています。また大学病院としての役割である特定機能、高度先進医療として、難聴者への人工内耳やナビゲーション手術など高度で安全な医療の提供と、頭頸部進行癌に対して集学的、機能回復外科をめざした最新医療を実施しています。患者様がどのような疾患で受診されても必ず満足していただけることを目標としています。

医育機関として人材育成の面では、自分が将来どのよう

な医師をめざすのかあるいは何を専門にしたいのかによって、開業医志向の「耳鼻科総合臨床医」コース、勤務医志向の「専門臨床医」コース、また短期間の技術習得、女性医師などのコースも設定し、自由に選べる体制を確立し、学内外を問わず広く医師を受け入れ、人材を確保し育成していきたいと考えています。

研究面では、教室の伝統を継承し内耳神経・感覚細胞、機能の再生に関する研究をさらに発展させたいと考えています。これからの新しい外科医療として、医工連携のもとにコンピュータテクノロジーやナノテクノロジーを応用した新技術の開発と医療への導入を具体的に進めたいと考えています。今後は、教室はもとより母校の発展と後進の育成に専心努力する所存でございます。皆様方のご支援とご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

## 法 人



### 眼科学講座教授に就任して

眼科学講座教授 高橋寛二

平成20年7月15日付で眼科学講座教授に就任いたしました。大学の皆様、あらためてよろしくお願ひ致します。私は、本学を昭和59年に卒業し、2年間の米国留学以外は、滝井、香里、枚方の3病院で眼科臨床の現場に立ち続けて参りました。専門は広く眼底疾患であり、外科的網膜疾患、内科的網膜疾患の両方、特に黄斑疾患を得意分野としています。本学の眼科学講座教授は私で第6代になりますが、塚原勇教授(現理事長)時代からの伝統的な専門分野である眼底疾患の診療、研究を継承しております。

人間が感知する情報の80%は視覚から入るといわれています。真の高齢化社会を迎えた現在、老後のQOL(生活の質)を保つため、健全な視覚の重要性は今後もますます増してくると予想されます。国民の健全な視覚を守るために、質の高い眼科医を育成し、高度の眼科医療を先進的に供給することは非常に重要であり、そのための大学病院の使命は重大です。大学人の使命は教育、研究、臨床であり、この3本柱のどれも欠かすことはできません。臨床に関しては、眼科内に11の専門チームがありますので、このチーム医療体制を維持発展できるようにオーガナイズ

したいと思っています。研究に関しては、滝井、枚方の二分化という本学の実情はありますが、教室には研究の伝統があり、熱意のある指導者が各領域でおられますので、研究志望者を増やせるように努力し、その中から世界に発信できる医学情報が生まれてくる環境作りをしたいと思っています。教育に関しては、「教えあい高めあう」教室の気風を絶やさずに、卒前・卒後教育に反映させていきたいと思っています。

新しい教室運営のテーマとしては、「勉強と実践」を掲げています。勉強はもちろん机の上での教科書的な勉強だけではなく、手術の勉強しかり、基礎研究しかり、臨床研究しかり、何事も広く勉強して学ぶこと、そしてそれを臨床で確実に実践し、患者さんのために還元すること、これが全ての医療の基本といえます。今後、確固たる知識と技術をもって、臨床において確実に実践できるバランスのとれた眼科医を育成することに力を注ぎたいと思います。

幸い教室には、歴代の教授が築かれた伝統の上に若い力がみなぎっています。若い力とともに教室の運営を楽しみながら行うことで、大学の発展にも寄与できればと思っています。大学の皆様には今後ともよろしくご協力、ご支援ほどお願い申し上げます。

## 大 学

### 平成21年度入学試験期日・選抜実施要項が決定

平成21年度本学入学者選抜試験の実施期日及び選抜方法が、下記のとおり決定しました。

#### 【一般入学試験】

- 〔募集人員〕  
約80名
- 〔出願期間〕  
平成21年1月5日(月)～1月30日(金)(消印有効)
- 〔選抜方法〕  
第1次試験  
入学者選抜学力検査実施教科・科目  
(1)数 学:数学I・数学II・数学III・数学A・数学B・数学C  
(2)外国語:英語I・英語II・リーディング・ライティング  
(3)理 科:物理I・物理II、化学I・化学II、生物I・生物IIの3科目から2科目選択(試験場で問題配布後、選択。物理IIのうち「原子と原子核」を出題する場合については、選択問題とする。)
- (4)ほかに小論文
- 〔実施期日〕  
平成21年2月11日(水・祝)(第1次試験)  
平成21年2月22日(日)(第2次試験)  
第2次試験(第1次試験合格者に対して実施)
- 面接
- 〔合格発表〕  
第1次試験:平成21年2月19日(木)  
第2次試験:平成21年2月26日(木)

#### 【特別選抜方法(推薦入学)】

- 〔募集人員〕  
約20名
- 〔出願期間〕  
平成20年11月1日(土)～11月8日(土)(消印有効)
- 〔選抜方法〕  
第1次選考  
書類選考  
第2次選考(第1次選考の合格者に対して実施)  
(1)小論文  
(2)適性検査(数理的問題、英文問題も含む)  
(3)面接(集団・個別)
- 〔実施期日〕  
平成20年11月23日(日)(第2次選考)
- 〔合格発表日〕  
第1次選考:平成20年11月18日(火)  
第2次選考:平成20年11月28日(金)

(詳細は募集要項参照)

ホームページ

<http://www.kmu.ac.jp/index.html>

## 学 事

## 研究助成金等受贈者(採択)一覧

平成19年度に募集のあった各種助成財団による研究助成金等を下記の研究者が贈呈されました。

研究助成法人・団体等	受贈者	研究課題等	助成額等
財不二たん白質研究振興財団 平成19年度研究助成金	生理学第二講座 久寶 真一 准教授	インフラボンによる抗パーキンソン病効果の検討	100万円
財車両競技公益資金記念財団 平成19年度がんの先駆的助成事業	病理学第一講座 池原 進 教授	骨髄内骨髄移植とドナーリンパ球輸注法を用いた癌治療法の開発	800万円
財循環器病研究振興財団 平成19年度公募研究助成	内科学第二講座 宮坂 陽子 助教	左室拡張能障害と炎症反応性蛋白による心房細動・脳梗塞の発症、予後予測に関する検討	100万円
自然科学研究機構 分子科学研究所 平成19年度自然科学研究機構分子科学研究所共同利用研究	物理学教室 木原 裕 教授	蛋白質のテラヘルツ領域での吸収スペクトル測定	採 択
財日本応用酵素協会 平成19年度研究助成金	医化学講座 伊藤 誠二 教授	細胞内トランスロケーションによる一酸化窒素合成酵素の活性化におけるプロスタグランジンの作用機序の解明	100万円
財喫煙科学研究財団 平成19年度喫煙科学研究財団助成金	産科学・婦人科学講座 安田 勝彦 准教授	妊娠時の子宮筋収縮調節機構とそれに及ぼす喫煙の影響	200万円
財喫煙科学研究財団 平成19年度喫煙科学研究財団助成金	内科学第二講座 西川 光重 教授	血管及び動脈硬化病変における甲状腺ホルモン代謝と作用に及ぼす喫煙の影響	250万円
財内藤記念科学振興財団 第39回(2007年度)内藤記念科学奨励金	薬理学講座 中邨 智之 教授	弾性線維形成の分子メカニズムの研究	200万円
財大阪難病研究財団 平成19年度医学研究助成	整形外科科学講座 真 賢一 助教	関節リウマチモデルマウス・SKC/Jclマウスを用いた骨粗鬆および骨破壊のメカニズムの解析	100万円
財森永奉仕会 平成18年度研究奨励金	小児科学講座 中野 崇秀 助教	抗がん剤治療中の小児がん患児における活性酸素およびフリーラジカル(酸化ストレス度)と抗酸化力の測定 ―治療関連毒性の克服に向けて―	50万円
財武田科学振興財団 2007年度「報彰基金研究奨励継続助成」	薬理学講座 中邨 智之 教授	弾性線維形成と動脈疾患におけるDANCE蛋白の役割の解明	300万円
財中山科学振興財団 平成19年度中山科学振興財団研究助成	病理学第二講座 松岡 洋一郎 准教授	経産乳腺の乳癌抵抗性形質にかかわるエピジェネティクスの研究	100万円
財上原記念生命科学財団 平成19年度研究助成金	薬理学講座 中邨 智之 教授	弾性線維形成の分子メカニズムの研究と弾性線維再生への応用	500万円
自然科学研究機構 生理学研究所 平成19年度第1回研究用ニホンザル供給(試行)	生理学第二講座 中尾 和子 助教	随意運動の発現と制御における中枢神経機構	採 択
財慢性疾患・リハビリテーション研究振興財団 平成19年度研究助成金	薬理学講座 中邨 智之 教授	老化による弾性線維再生能低下の分子メカニズムと弾性線維再生の研究	100万円
財藤井節郎記念大阪基礎医学研究奨励会 平成19年度研究助成金	外科学講座 濱田 吉則 准教授	小腸移植における腸管適応促進剤の開発	200万円

## 学 事

## 研究助成金等受贈者(採択)一覧

研究助成法人・団体等	受贈者	研究課題等	助成額等
アストラゼネカ(株) アストラゼネカ・リサーチ・グラント 2007	胸部心臓血管外科学講座 金田 浩由紀 助教	Identification of lung adenocarcinoma stem cells and their clinical impact	200万円
自然科学研究機構 生理学研究所 平成20年度自然科学研究機構生理学 研究所共同利用研究	生命医学研究所 分子遺伝学部門 木梨 達雄 教授	2光子顕微鏡による免疫細胞動態制御の解析	採 択
(財)内視鏡医学研究振興財団 平成19年度内視鏡医学研究振興財団 研究助成金	内科学第三講座 内田 一茂 講師	自己免疫性膵炎におけるEUS/EUS-FNA所見と 免疫学的異常に関する検討	50万円
(財)大阪対ガン協会 平成19年度ガン研究助成奨励金	病理学第二講座 上原 範久 講師	アセチル化修飾を介したヒト乳癌細胞増殖抑制 における細胞質分裂制御の役割	30万円
(財)大阪対ガン協会 平成19年度ガン研究助成奨励金	病理学第二講座 塚 貴司 講師	エストロゲンの乳癌前駆病変に対する修飾作用 の分子病理学的解析	30万円
(財)大阪対ガン協会 平成19年度ガン研究助成奨励金	放射線科学講座 野村 基雄 研究医員	経皮的椎体形成術による椎体への骨セメント注 入が放射線治療線量分布へ与える影響	30万円

## 関西医科大学医学会賞 優秀賞・奨励賞 若手研究者3人を表彰

5月27日(火)午後3時30分から専門部学舎大会議室で第7回関西医科大学医学会賞の表彰式が行われました。優秀賞1人、奨励賞2人の合わせて3人が山下敏夫学長から表彰状及び賞金が授与されました。

今回、表彰されたのは優秀賞の医化学講座・片野泰代さんと奨励賞の男山病院内科・関本剛さん、内科学第二講座・今田崇裕さんの3人です。

関西医科大学医学会(委員長・螺良愛郎教授)は、3月28日精神神経科学講座主催の第124回学内学術集談会で第7回関西医科大学医学会賞の応募口演が行われ、続いて開かれた選考委員会で受賞者が決定しました。

## 関西医科大学医学会賞とは

本学医学会事業の一環として本学医師会の後援を得て平成13年に創設されました。

本賞は当該年本学で学位を授与された若手研究者を鼓舞し、さらなる飛躍を期待するために設けられ、応募者は毎年、開催される学内学術集談会で口演し、医学会賞選考委員会の厳正なる審査のもと、優秀賞・奨励賞(賞金総額50万円)が決定されます。



受賞の片野さん(前列右から2番目)、関本さん(前列左から2番目)、今田さん(前列左)

新任教員教育ワークショップ  
47名に修了証を授与

恒例の新任教員を対象としたワークショップが、6月28日(土)午前9時から専門部学舎において、伊藤誠二副学長はじめタスクフォース担当の教務委員会委員6名と新任教員47名の参加を得て開催されました。

午前は、「本学のカリキュラムについて」と題した教務委員会FD小委員会委員長の西川光重教授の講演があり、引続き各個別テーマである「本学のチュートリアル教育」「本学のOSCE、Advanced OSCE」「適切な試験問題作成法」について教務委員による講演がありました。

午後は、チュートリアル、試験問題作成、OSCEのグループに分かれて討議、発表が行われ、終了後、参加された新任教員の方々に修了証が授与されました。

## 学 事

## 建仁寺で厳かに第78回解剖体追悼法要行われる



第78回解剖体追悼法要は、恒例により5月15日(木)午前10時から、京都市東山区大和大路四条下ルの臨済宗大本山建仁寺において、施主・山下敏夫学長（伊藤誠二副学長代理出席）をはじめ、教職員、学生、献体関係者ご遺族、白菊会役員ら約230名が参列をして厳かに執り行われました。

引き続き同所において、午前11時から、学生実習に捧げていただいた18体の遺骨の返還ならびに感謝状の贈呈が行われました。

（写真は、追悼の辞を捧げる伊藤副学長）

## 第27回白菊会総会 250名が出席、卒寿会員に記念品贈呈

6月7日(土)午後1時から附属滝井病院本館6階大講堂において、第27回白菊会総会が実施されました。白菊会会員約250名が出席、また、大学からも山下敏夫学長をはじめ、解剖学第1・第2講座関係の教員が出席しました。

第1部では、平野利夫会長、岡村政利・藤澤直子両副会長、中川久幾監事等の新役員就任の承認に引き続き、コールクライス部学生による「白菊会の歌」斉唱、役員紹介、監査報告、卒寿を迎えられた会員への記念品贈呈などがあり、第2部では、学長の挨拶、医化学講座伊藤誠二教授（副学長）による特別講演（演題：「痛みとうまくつきあう方法」）が行われました。最後に、出席者で記念写真撮影を行い、閉会となりました。



出席者全員で記念撮影

## 「国外臨床実習の成果」報告会

## 後輩へのアドバイスなど、経験談に活発な質疑応答

7月29日(火)午後4時から、本学と協定を締結している国外施設で約4週間の実習を終え帰国した、6学年学生4名による「国外臨床実習の成果」報告会が専門部学舎第一講堂で開催されました。

報告会は西川光重教授の司会で進められ、まず、山下敏夫学長および藺田精昭教務部長から開会の挨拶があり、引き続き、杉山輝明君と徳山錦蘭さんによるマレーシア・国立循環器病センターでの実習報告、伊賀朋子さんと猪瀬涼子さんによるドイツ・レーバークーセン総合病院での実習報告がありました。

報告内容は、それぞれの国の文化や生活事情、1日のスケジュール、実習内容、日本との相違点、後輩へのアドバイス等で構成されており、報告・質疑応答すべて英語で行われました。

夏休み期間中ということもあり、例年より参加者は少なかったのですが、分かりやすく興味を引く内容であったため、次第に意見交換も活発になり、「来年度以降もより多くの学生が本プログラムに興味を持ち、積極的に参加し、また次の後輩へ引き継いでいってほしい」という西川教授の閉会の言葉で、約1時間15分の報告会が終了しました。

## 病 院

## 附属枚方病院

2階エントランスホールで開催されたサマーコンサート▼



## 院内サマーコンサートを開催

看護師さんら浴衣姿で彩り  
患者さんらは楽しいひと時

7月19日（土）午後2時30分から2階エントランスホールにおいて、ボランティア委員会の主催による院内サマーコンサートが開催され、会場には溢れんばかりの患者さんが詰め掛けました。

第1部は、ボランティアの姉妹によるクラシックを中心としたピアノ演奏の連弾、第2部は本学の医学生合唱団「コールクライス」と看護学生による混声コーラスを披露しました。患者さんらは、「楽しいひと時を過ごしました」と口々に。またボランティアで参加した看護部のスタッフも浴衣姿で彩りを添えてくれました。

## こども病棟で夏祭り

8月6日（水）午後6時30分から、こども病棟の夏祭りが開催されました。

開院以来、こども病棟のスタッフが中心となって企画・準



備され、例年この時期に実施されてきました。5階の屋外プレイコートでの開催を予定していましたが、直前に雷雨となったために病棟内での開催となりました。綿菓子やポップコーンにヨーヨーすくいなどの模擬店で参加した入院患者さんの子供達やご家族にも楽しいひと時を過ごしてもらいました。（写真は、病棟で行われた夏祭り風景）

## 院内ボランティア交流会を開催

7月16日（水）午後2時から、院内ボランティアの皆さんとの交流会が開催されました。今回が2回目となる交流会には12名のボランティアの方が参加。ボランティア委員会委員長のリハビリテーション科の吉田清和部長から、車椅子の操作方法について勉強会を行ったのち、交流会では今までの活動内容やボランティアの視線で気付いたことなどについて、忌憚のない意見交換が行われました。

「患者様を癒す身だしなみ教室」  
看護師さんモデルにメイクのライブ

6月3日（火）午後5時30分から、13階講堂及び合同カンファレンスで「患者様を癒す身だしなみ教室」と題したセミナーが開催され、看護部を中心に多くの女性スタッフが参加しました。

3部構成になっており、第1部は㈱サンエイの小山智弘氏による「患者満足度の向上」をテーマに患者クレーム対応についての講演後、松竹芸能の若手お笑いコンビ「ダブルダッチ」のお二人が絶妙の絡みで身だしなみの大切さをPR。第2部は、美白診断士の岡田有子さんによる「毎日できる美白スキンケア」の講演があり、第3部は皆さんお待ちかねの“おぐねー”こと小椋ケンイチ氏の指導により、看護師さんお二人がモデルになってメイクのライブショーが行われました。

参加された皆さんも興味あるテーマだけに、ふだんのセミナー以上に熱心で、終了後も“おぐねー”との記念写真を撮るなど最後まで盛り上がりました。

## 病 院

## 附属滝井病院

大阪府肝疾患診療連携  
拠点病院に指定される

この度、厚生労働省健康保健局長通知健発第0419001号「肝疾患診療体制の整備について」に基づき7月10日付で大阪府肝疾患診療連携拠点病院に指定され

漫談に聴き入る入院患者さん



## 「院内お笑い寄席」を開催

5月30日（金）午後4時30分から、本館6階臨床講堂において「笑いで元気に！」をキャッチフレーズに「院内お笑い寄席」が開催されました。

寄席は漫談、大神楽、漫才が上演され、入院患者さんら192名の方がひと時の笑いのを楽しみました。

## 患者相談窓口を運用開始

患者相談窓口は従来MSWが対応していましたが、6月2日から事務部および看護部での運用を開始しました。患者相談窓口は、滝井病院の医療安全と信頼性を高めるため、医療にかかる苦情、相談等に迅速かつ適切に対応す

ました。

今後、当院は肝疾患に関する専門医療機関の機能のほか、肝炎を中心とする肝疾患に関する(1)医療情報の提供(2)府下の専門医療機関等に関する情報の収集や提供(3)医療従事者や地域住民を対象とした研修会・講演会の開催、相談支援(4)専門医療機関等との協議の場の設定、といった機能を有することにより、大阪府の中で肝疾患の診療ネットワークの中心的な役割を果たしていきます。

ることで、当事者間の理解の促進や紛争を未然に防止し患者サービスの向上を図ることを目的として、本館1階患者相談センター内に設置されました。

## 院内感染対策講習会に167名

7月3日(木)午後5時30分から南館2階で「感染制御から見た抗菌薬の適正使用」と題した院内感染対策講習会が開催され、167名が参加、約1時間の講演を熱心に聴いていました。講師は、大阪大学医学部感染制御部教授・朝野和典先生。

## 時間外診察室を改修

## 9月から「ER」3室で運用

5月28日(火)から本館C棟1階会議室を時間外診察室に改修し、医療法に基づく大阪府による施設使用前検査を経て8月1日から使用が許可されました。続いて従来使用している時間外診察室の改修工事を行い、最終的に9月1日から時間外診察室を「ER1・ER2・ER3」の3室で運用することが予定されています。



## 附属男山病院

## 男山では七夕ミニ・コンサート

7月5日(土)午後2時30分から約1時間、2階外来待合ロビーで手作り「七夕ミニ・コンサート」が開催され、入院患者さんや家族らが、看護師さんらの熱演を楽しんでいました。

会場には、ホール一杯の約180名が集まりました。ハンドベル、歌、ダンスなど看護師さんらが仕事の合間に練習した成果を発揮、患者さんらは、拍手喝采、大いに楽しんでいました。

また、子供たちのためにスーパーボールすくいコーナーを、大人たちには、お茶席が用意され、趣向を凝らしたコンサートを満喫していました。



浴衣姿で熱演する看護師さんたち

## 医療安全管理センター

## 「医療事故・医療紛争」をテーマに 医療安全講演会に340人 医師で弁護士の田邊さん講演

医師と弁護士の両方で開業されている田邊昇弁護士による「医療事故・医療紛争について」をテーマとした講演会が7月10日（木）に附属枚方病院にて開催（附属滝井病院に遠隔配信）されました。出席者は、340名（枚方203名、滝井131名、男山2名、大学その他4名）で、職種は、

医師26名、看護師247名、技術職37名、事務職ほか30名でした。

講演では、医療裁判の最新の統計や代表的な判例から手術説明に必要な内容などを示され、インフォームド・コンセントは、(1)患者のリスク負担としての文書説明、(2)信頼関係構築、(3)医療者の注意喚起による患者安全の向上、といった観点から行う事が重要とのことでした。予定時間を超過した熱心な講演で、質疑も活発に行われました。

## 「内服薬管理と持参薬管理」テーマに 枚方市内3病院が合同ワークショップ



枚方市保健センターで発表する  
本院の医療安全管理者

6月12日（木）に枚方市保健センターにて「内服薬管理と持参薬管理」をテーマにワークショップが開催されました。このワークショップは、枚方市民病院、星ヶ丘厚生年金病院と附属枚方病院が、医療安全対策の共有や

枚方市内の医療安全向上を目的として、昨年から開催しているもので、今回が2回目です。

本院からは、川瀬泰裕専任医療安全管理者が「関西医科大学附属枚方病院における持参薬管理-薬剤師の立場から-」、西村祐子看護師長が「内服薬管理における現状と課題」を発表、他病院からも取り組み事例が報告されました。参加者は149名で、本学からは31名（医師1名、看護師23名、薬剤師4名、事務職3名）が参加しました。

その後の討論では、薬剤部の病棟業務拡大が安全面だけでなく看護師の負担軽減やチーム医療の推進の観点からも有意義であるが、現在の人員では患者管理指導か点滴混注業務の片方しか対応できず、増員が不可欠であるという結論でした。次回は来年6月に星ヶ丘厚生年金病院で開催される予定です。

## 刺股・警戒杖講習会 枚方警察署の柔道師範迎え

5月22日（木）に附属枚方病院にて、枚方警察署の防犯係長と柔道師範を講師にお迎えして、刺股（さすまた）・警戒杖講習会を開催しました。参加者は52名（看護師38名、事務職7名、その他7名）でした。刺股の取り扱いや刃物を持った相手への対応などの実技訓練を熱心に受講していました。附属滝井病院では3月17日に同様の内容で開催されています。



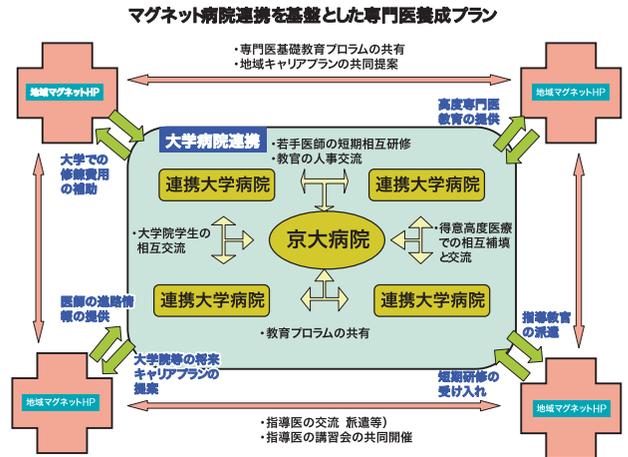
「自分の身は自分で守らなきゃ」みんな熱心に実技訓練

卒後臨床研修センター

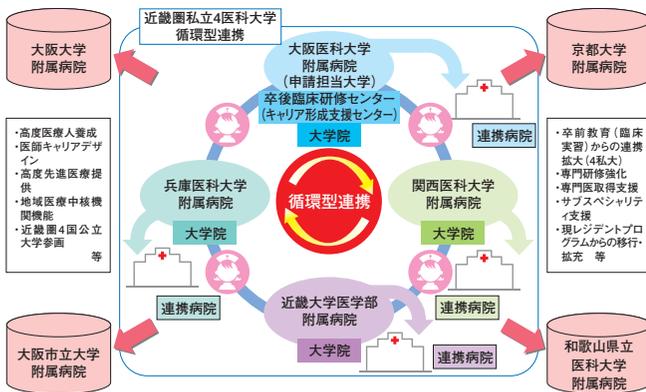
平成20年度「大学病院連携型高度医療人養成推進事業」に選定される

文部科学省が、質の高い専門医及び臨床研究者を養成するプログラムに対し財政支援を行う平成20年度「大学病院連携型高度医療人養成推進事業」の2事業に本学も参画することになりました。

「近畿圏循環型医療人キャリア形成プログラム」（申請：大阪医科大学）と「マグネット病院連携を基盤とした専門医養成（大学病院とマグネット病院との機能的連携を基盤とした高度医療人養成プラン）」（申請：京都大学）の2つのプログラムです。



近畿圏循環型医療人キャリア形成プログラム



平成21年度 採用試験を実施

平成21年度卒後臨床研修センター採用試験が下記のとおり実施されました。

- 実施日 平成20年7月20日（筆記）  
7月31日（面接）
- 出願者数 97名（男子62名、女子35名）  
（本学出身74名、他大学出身23名）
- 受験者数 94名（男子60名、女子34名）  
（本学出身72名、他大学出身22名）
- 募集人員 90名（枚方病院50名、滝井病院40名）

大学情報センター

＜自宅や出張先のパソコンから学内ネットワークへ接続できます＞

～学生の皆さんも、これまで見られなかった講義資料が自宅でも見られます。試験勉強もバッチリ!～

講義資料、Eメール、グループウェア、電子ジャーナル閲覧などの学内ネットワークで提供されているサービスを自宅や出張先のパソコンからインターネット経由で利用できます。VPN (Virtual Private Network) という基盤システムを導入し、ユーザ認証と通信の暗号化によってセキュリティを確保しています。

学生、大学院生、教職員などKMUnetメールアドレスをお持ちの方なら、どなたでもご利用できます。アクセス手順は以下のURLをごらんください。

なお、パソコンの種類や設定条件、ならびに利用できるサービスには一部制限があります。ご了承ください。

インターネット用ページ:

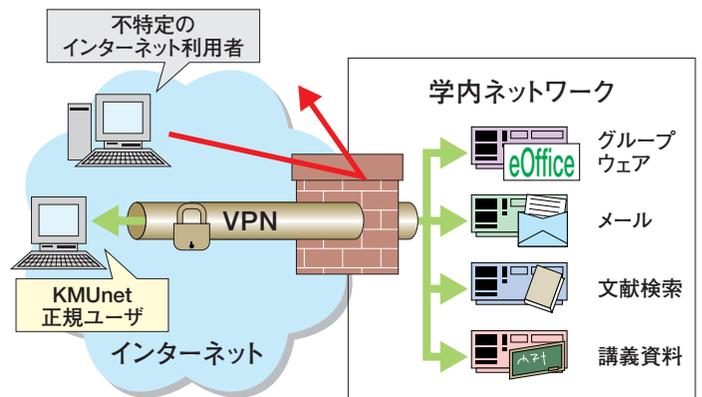
[http://www3.kmu.ac.jp/uic/vpn/vpn\\_guide.html](http://www3.kmu.ac.jp/uic/vpn/vpn_guide.html)

学内専用ページ:

<http://www.tnoc.kmu.ac.jp/uic/vpn/>

お問い合わせ: 大学情報センター 学術部

TEL 06-6993-9632 内線 81-2149



## 附属看護専門学校

### 平成21年度入学試験期日・選抜実施要項が決定

平成21年度附属看護専門学校の入学試験実施期日及び選抜方法が、次のとおり決定しました。

#### 【一般入学試験】

\*平成21年度より、一般入学試験を前期試験と後期試験に分割する。

看護学科（3年課程）

#### 〈前期試験〉

1. 募集人員 30名
2. 学科試験教科・科目
  - ・国語総合（漢文、古文含まず）・現代文
  - ・英語Ⅰ・Ⅱ
  - ・数学Ⅰ
3. 入学志願書受付期間  
平成20年12月1日（月）～12月22日（月）
4. 入学試験日  
学科：平成21年1月14日（水）  
面接：平成21年1月15日（木）
5. 合格発表  
平成21年1月23日（金）午前9時

#### 〈後期試験〉

1. 募集人員 10名
2. 学科試験教科・科目
  - ・国語総合（漢文・古文含まず）・現代文

・英語Ⅰ・Ⅱ

3. 入学志願書受付期間  
平成21年2月2日（月）～2月13日（金）
4. 入学試験日  
学科：平成21年2月23日（月）  
面接：平成21年2月24日（火）
5. 合格発表  
平成21年3月7日（土）午前9時

#### 【推薦入学試験】

1. 募集人員 40名  
指定校制 1校約2名
  - ①学科試験教科・科目
    - ・国語総合（漢文、古文含まず）・小論文
  - ②面接
2. 入学志願書受付期間  
平成20年11月1日（土）～11月8日（土）
3. 入学試験日  
学科・面接：平成20年11月15日（土）
4. 合格発表  
平成20年11月25日（火）午前9時

### 気持ち新たに！戴帽式

本学附属看護専門学校の第28期生戴帽式が、5月12日（月）午前10時から附属看護専門学校講堂において行われました。式には、木下利彦学校長、塚原勇理事長、今村洋二附属枚方病院長はじめ教職員、来賓、保護者らに見守られる中、戴帽生93名は、キャンドルを手にしながら、看護職への道のりに向けて気持ちを新たにしていました。戴帽生は次のとおりです。



キャンドルを手に戴帽式

#### 附属看護専門学校 平成20年度戴帽生氏名



## キャンパス ニュース

### 学長賞授与式 水泳部門の個人とメドレーの優勝者ら

平成19年度学長賞授与式は、7月8日（火）専門部学舎1号館5階の大会議室で執り行われ、山下敏夫学長から、クラブ活動賞の団体1件、個人6名に、また、社会活動賞が個人1名に授与されました。

クラブ活動賞は、第59回西日本医科学生総合体育大会



の女子水泳部門で優勝した4名の学生をメインに空手、弓道で活躍した学生に授与されました。社会活動賞は、発達障害にかかわるボランティア活動をした学生が受賞しました。

学生生活を充実させるための励みとすることを目的とした学長賞は、「クラブ活動」「社会活動」「文化活動」で優れた成果を挙げた学生に贈られます。（写真左は、喜びの受賞者と山下学長、山田学生部長。下の写真は、左から真鍋さん、金子さん、仲井さん）



#### <クラブ活動賞>

受賞者	内容概要
水泳部（女子）	第59回西日本医科学生総合体育大会 水泳女子部門総合優勝
金子 朋加 （現3学年、水泳部）	第59回西日本医科学生総合体育大会 女子200m個人メドレー優勝 女子200mリレー優勝、女子400mリレー優勝、女子200mメドレーリレー優勝
仲井 えり （現4学年、水泳部）	第59回西日本医科学生総合体育大会 女子200mリレー優勝、女子400mリレー優勝、女子200mメドレーリレー優勝
栞名 香代子 （現5学年、水泳部）	第59回西日本医科学生総合体育大会 女子400m自由形優勝 女子200mリレー優勝、女子400mリレー優勝、女子200mメドレーリレー優勝
真鍋 和代 （現6学年、水泳部）	第59回西日本医科学生総合体育大会 女子200mリレー優勝、女子400mリレー優勝、女子200mメドレーリレー優勝
任 沙織 （現5学年、空手道部）	第21回全日本学生空手道選手権大会 女子クラス3位
向井 悠 （現3学年、弓道部）	第2回大阪市体育協会会長杯弓道大会 第2位

#### <社会活動賞>

受賞者	内容概要
工藤 雅子 （現4学年）	発達障害にかかわるボランティア活動

## キャンパス・ニュース



全員での記念撮影

### 合歓の郷で1学年合宿研修

## 今年は春に実施、もう新しい友人できた!

これまで秋に実施していた恒例行事でもある、1学年の合宿研修が5月7日(水)から9日(金)までの2泊3日の日程で、三重県の「合歓の郷」において行われました。幸い全日とも天候にも恵まれ、1日目は講演会とグループ懇話会、2日目はパターゴルフ(写真左)とアーチェリーのスポーツレッスン

及び夜間にはグループ懇話会の発表、3日目はクイズラリー等を行いました。この合宿研修を通して、これから医師となる自覚と責任感が養われ、また、入学時の早い時期に実施したことで、新しい友人もでき、学生間及び学生と教職員の交流も深まりました。

### 本学の教育に関する学生との懇談会 学長らと終始、和やかに懇談

7月2日(水)午後6時から専門部学舎1号館5階大会議室において、本学の教育に関する学生との懇談会(教学懇談会)が開催されました。出席者は、各学年のクラス代表の学生、教務委員、学館運営委員の17名。教員は、山下敏夫学長はじめ、伊藤誠二副学長、専門部・教養部両学生部長、各学年のクラスアドバイザー、附属枚方病院長、附属滝井病院長の15名に教養部、専門部の事務職員8名の合計40名でした。司会進行を学生が行い、軽食をとりながら、各学年の大学に対する要望事項等を教員が聞き、それに対して回答するという形式で終始和やかに懇談しました。

学生からの教務関連の要望は、各学年のアンケート結果を元に講義プリントや試験を行う時期の見直し、チュートリアル学習の資料配付等がありました。また、学館関連の要望は、教養部女子お手洗いの擬音装置の設置、講堂に空調機の設置、附属枚方病院の研修棟の有効活用等がありました。

教員からは、学生からのそれぞれの要望への回答を行い、それに関連して、チュートリアル教育への取り組み方、学生時代の勉強の仕方のほか、特に医学生として身に付けるべき態度・人間性について話がありました。

最後に山下学長から学生、教員との情報が共有できたことがよかった旨の挨拶があり、午後8時過ぎに閉会しました。

### 基本的心肺蘇生術実習を実施 2学年が人形やAEDを用いて

6月13日(金)の4~5時限に、附属滝井病院6階大講堂にて、2学年を対象とした「総合人間医学2 基本的心肺蘇生術実習」が実施されました。インストラクターとして学内で開催された認定ACLS講習会(ICLS)を受講した教員を中心に、学内の心肺蘇生法普及委員会のメンバーである看護師の協力を得て学生の指導にあたりました。107名の学生は10グループにわかれ、DVDを視聴した後に、蘇生人形やAEDを用いて心肺蘇生法を実習しました。

蘇生人形を用いて指導



## メディア情報

## 教職員メディア情報

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、また記事を掲載された教職員の方々を紹介します。  
（平成20年5月1日～8月30日）

福永 幹彦 准教授 （心療内科学講座）	毎日新聞 5月11日 ～6月15日の 毎週日曜日	続・女性の健康50話 第7話 出産がもたらすもの、第8話 更年期、体調崩して当然、 第9話 余計に苦しまないで、第10話 からだのことも、第11話 からだの声をきく、第12話 からだへの気づき
木村 穰 准教授 （内科学第二講座）	読売新聞 5月31日（土）	生活習慣病に総合対策 生活習慣病予防、改善に、医師だけでなく、運動療法や栄養学などの専門家もより連携していこうと、「日本メディカルパーソナルサポート協会」を発足。患者ひとりひとりにあった総合的な運動療法を行える人材を育成し、現場への供給を目指す
木村 穰 准教授 （内科学第二講座）	読売新聞 6月6日（金）	生活習慣病を予防する “脱メタボ” もっと楽に 生活習慣病対策について解説
金子 一成 教授 （小児科学講座）	朝日新聞 6月8日（金）	点滴より経口補水療法 子どもの嘔吐・下痢には経口補水療法が有効とし、その方法を解説
附属枚方病院	週刊ダイヤモンド 6月14日発行	病院の安心度・総合ランキング 全国で25位
中井 吉英 教授 （心療内科学講座）	読売新聞 6月26日（木）	医療ルネサンス 高齢者の痛み 検査結果に異常がないと認めなかったり、どんな症状でも心 の問題のせいにしたたりするのは間違い。心と体はどちらが先 でもなく、相互に作用しあっていると解説
西山 利正 教授 （公衆衛生学講座）	教育テレビ ＜きょうの健康＞ 7月10日（木）	テーマ 海外旅行 発熱・下痢に注意
神原 憲治 非常勤講師 （心療内科学講座）	毎日新聞 8月3日 ～8月24日の 毎週日曜日	続・女性の健康50話 第19話 からだからのメッセージ、第20話 ことごとからだの対 話、第21話 よろいをときほぐす？、第22話 よろいとボディワーク

## 情報お待ちしています

今回から、教職員の方々がメディアに登場された場合に掲載させていただきます。このコーナーは、皆さまからの情報提供によって構成されます。テレビ出演が予定されている時は、前もって下記の情報連絡先までお願いします。

なお、このメディア情報欄に紹介するのは、朝日、産経、日経、毎日、読売の5大紙およびNHK・毎日・朝日・関西・読売の各テレビ局、主要な月刊誌・週刊誌等に取り上げられたものに限らせていただきます。

情報連絡先：総務部広報課 ☎06-6993-9672（内線2138） ✉kmuinfo@takii.kmu.ac.jp

## お知らせ

## 創立80周年記念講演会のご案内

本学の創立80周年を記念して、本学の関係者を対象に記念講演会を開催します。内容は、理事長・学長の挨拶、京都大学の山中伸弥教授のご講演、新しく作成した大学紹介DVDの披露を予定しています。

また、当日は学園祭の中日に当たるため、学園祭と連携して教養部キャンパスへの中継を予定しています。本学の関係者が一堂に会して、本学の歴史を振り返り、将来への夢を共有しつつ、最先端の医学研究に触れる貴重な機会となりますので、多くの学内関係者の皆さんの参加をお待ちしています。

日 時 平成20年11月1日(土) 午後2時から

場 所 枚方市民会館 大ホール

住所:大阪府枚方市岡東町8番33号

電話:072-843-1122

対 象 本学の教職員(研究医員、研修医、医員、臨時職員を含む)、本学の医学生及び看護学生並びにその保護者、同窓会員、名誉教授、旧職員等

講 演 講師 京都大学再生医科学研究所

山中 伸弥 教授

演題 「iPS細胞の可能性」

なお、本件に関するお問い合わせは、創立80周年記念事業委員会事務局(総務部庶務課06-6993-9407)までお寄せください。

## 理事長楯争奪職員 バレーボール大会

レクリエーション実行委員会企画による「第37回理事長楯争奪職員バレーボール大会」が7月6日(日)教養部体育館において、参加17チームによる熱戦が展開されました。

成績は次のとおりです。

優 勝：Team Emergency (附属枚方病院)

準優勝：STOP! The Leak (附属枚方病院)

第3位：CCれもんず (附属枚方病院)



優勝チーム、Vサイン

## 「関西医科大学 広報」年4回発行

原稿お寄せください

広報誌もVol.2を発行することができました。この季刊誌は、関西医科大学と教職員、学生、同窓生、保護者を結ぶコミュニケーションツールの一つです。年4回(5月・8月・11月・1月)発行しますが、皆様の協力があって初めて紙面構成ができます。皆様からの原稿お待ちしております。

### 編集後記

暑い夏をさらに熱くしたスポーツの祭典、北京オリンピックが終わりました。この頃、朝晩がさわやかに感じます。いよいよ“灯火親しむ候”です。

北京五輪と言えば、TVを観ていると当然中国語が頻繁に目に入ってきました。この競技は中国語では、こう書くのか。漢字を見ると「なるほど」と納得することも多かったです。漢字文化圏である中国ですから当然と言えば当然のことです。耳では、分かりませんが、目で分かります。

例えば、「跳高」は「走り高跳び」、「跳遠」は「走り幅跳び」。但し、「馬拉松」は音訳した言葉で「マラソン」のことらしいです。でも、患者さんに使う医学用語は、分かり易くしなければなりません。患者さんが見て聴いて、理解してもらうことが重要なのです。

先だって、国立国語研究所が、患者が分かりづらい医師の言葉100語を選んだ記事が新聞に載っていました。予後のほか、QOL(生活の質)、寛解(かんかい)、合併症、浸潤(しんじゅん)、ステロイドなどです。言い換えや説明なしで使っている医師は、予後が10%、「寛解期にある」とか。普段、何気なくつかっている言葉だからこそ相手にも通じていると思ってしまう。医学・医療関係者にとっては、当たり前の言葉でも、患者にとっては、難解と心得るべし。

さて、今回の広報誌Vol.2は、法人メッセージ「アクション2015」を掲載。それに強力で推進するための法人部門の4室が、新設、改編されました。4人の室長に目標、方策、そして抱負など書いてもらいました。本学をリードする部門であり、理解を深めてもらえれば幸いです。

(総務部広報課 M.N)

### 関西医科大学広報 Vol.2

発行 学校法人 関西医科大学

編集 総務部 広報課

〒570-8506大阪府守口市文園町10-15

Tel 06-6992-1001 (代表)

Fax 06-6993-5221

<http://www.kmu.ac.jp/index.html>

E-mail [kmuinfo@takii.kmu.ac.jp](mailto:kmuinfo@takii.kmu.ac.jp)

平成20年8月30日(土)発行